

営農情報

2022
7月号 No.114

J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課

TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

今月の話題

- ◆ 今後の気象からみた病害の対策
 - ・ 今後の気象状況
 - ・ 気象から見た主な病害虫対策
- ◆ 高品質米生産に向けた対策
 - ・ 生育に応じた穂肥の施肥
 - ・ 常時湛水管理
- ◆ 農作業中の熱中症にご注意ください！

メモ



- ✓ ケット製穀類水分計(ライスタ, PB, PM)
点検受付中 7月22日(金)まで
点検料 1台 1,100円(税込)
お申し込みは
各支店又は営農経済渉外まで
- ✓ 令和3年度産ナラシ対策について
・ 令和3年産米については標準的収入額より当年産の収入額が減少した事から米のみ発動し交付されました。また、令和4年産に係る抛出金は8月初旬に近畿農政局から積立額通知書が案内されます。ご確認下さい。

6月24日に今年度4回目の水稻生育調査を行いました。特に問題ない結果でしたが、今年の夏は高温になる可能性が高いと言われています。異常な高温が続く気候は水稻の収量や品質を低下させる原因となります。適切な施肥と水管理の徹底が重要となります。

また7月は病害虫の発生時期でもあります。気になる点がある場合は圃場まで伺いますのでご連絡下さい。

今後の気象からみた病害の対策



今後の気象状況

ポイント

7月の予報

降水量：日本海側を中心に少ない

日照時間：日本海側を中心に多い見込み

大阪管区气象台
(6/25発表)

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
日本海側	低10 並20 高 70% 高い 見込み	少 40 並 40 多20% 平年並か少ない 見込み	少20 並30 多 50% 多い 見込み
太平洋側		少 40 並 40 多20% 平年並か少ない 見込み	少20 並30 多 50% 多い 見込み
数値は予想される出現確率(%)です	平均気温（1か月） 	降水量（1か月） 	日照時間（1か月）
	低い確率(%) 50以上 40 平年並も40 40 高い確率(%) 50以上	少ない確率(%) 50以上 40 平年並も40 40 多い確率(%) 50以上	少ない確率(%) 50以上 40 平年並も40 40 多い確率(%) 50以上



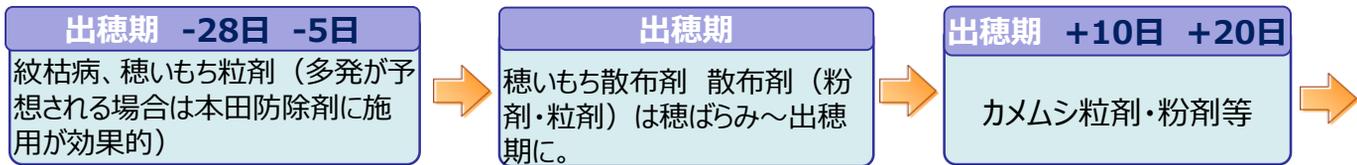
気象から見た主な病害虫の対策

情報

病害虫発生予報(6/21時点)

時期…葉いもち、紋枯病は「やや遅い」 発生量…葉いもち、紋枯病、カメムシは「平年並み」

紋枯病・いもち病と斑点米カメムシ類の適期薬剤防除の考え方



病害	病状	防除ポイント	薬剤	散布時期
紋枯病		株元に病原を確認したら散布が効果的 特に昨年発生ほ場は注意!!	リンバー粒剤 2,552円(税込)	出穂前30日 ～出穂期まで
いもち病		発生が確認されたら、出穂3～4週間前の散布が効果的	コラトップ粒剤5粒剤 2,222円(税込)	出穂30日前 ～5日前まで
斑点米カメムシ		品質低下の要因 出穂2～3週間前と出穂期の2回の草刈りが効果的	スタークル粉剤DL 1,287円(税込)	出穂期7～10日後 (粉剤・液剤) 出穂期7日後(粒剤)

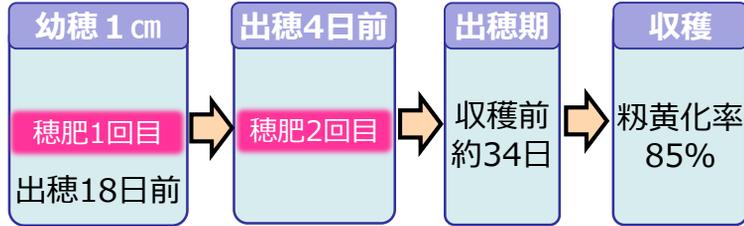
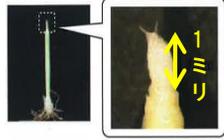
高品質米生産に向けた対策

☑ 生育に応じた穂肥の施肥

穂肥の施用については、移植時期やほ場の条件によって生育が異なるため、幼穂を確認し適期に適量を施肥しましょう。

コシヒカリの穂肥時期の目安

幼穂を確認
しましょう



穂肥のタイミングによる影響

- ◆ 穂肥タイミングが早すぎると
籾数過多、倒伏のおそれあり、乳白粒増加
- ◆ 穂肥タイミングが遅すぎると
籾数減少、玄米タンパク増加



未熟粒増加
食味低下
登熟歩合低下

一般的な穂肥量の目安

※上段：コシヒカリ(湖辺・平坦地域) 下段：日本晴

①株張り	②葉色	出穂前日数と10a当たりの窒素施肥量(kg)							
		-28	-25	-22	-21	-18	-15	-11	-4
大	濃								1~2
	淡			3			2	1	1~2
標準	濃						2		1
	淡		3				2		2
小	濃					2		1	
	淡		3~4						
		3~4			2		2		

確認①

株張り 莖数25本以上⇒大
20~25本⇒標準
20本以下 ⇒小

確認②

葉色 葉色値(カラスケール値)
3.8以上 濃 3.8未満 淡

【基肥一発肥料の対応】

一発肥料を使用されていても、出穂前に葉色が薄い場合には10aあたり窒素成分で1kgの穂肥を施肥しましょう。(葉色値でコシヒカリ3.8、日本晴4.0以下の場合)

☑ 常時湛水管理

カドミウム吸収抑制対策のため、出穂前後各3週間の常時湛水管理を必ず実施しましょう!!

湛水管理で
品質UP!



落水は
収穫5日
~1週間前



農作業中の熱中症にご注意ください!

熱中症は温度や湿度が高い中で体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、眩暈、痙攣など様々な症状を引き起こす症状の事です。熱中症の症状に気が付かず、知らず知らずのうちに熱中症にかかっている方が多くいます。夏の農作業で心がけて頂きたい事を下記にまとめましたのでご確認ください。

1 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう

- 特に高齢者の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう。

2 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう

- のどが渇いていなくても20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給をしましょう。
- 足がつったり、筋肉がピクピクする症状が見られたら、スポーツ飲料や塩分補給用タブレットを摂取しましょう。

3 単独作業を避けましょう

- 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう。

4 マスクの着用について

- 高温の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクを高めます。
- マスクを着用する場合、強い負荷がかかる作業は避けてこまめな水分補給を心がけましょう。



熱中症が疑われた場合の処置

- **日陰など涼しい場所に移る。**
- **体を冷やす。**
- **水分補給をする。**

濡らしたタオルなどを首周り、脇下や足の付根に当てて冷やすことが効果的です。



症状がひどい場合は医療機関へ

頭痛・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感などの症状がある場合は医療機関を受診してください。



熱中症警戒アラートの活用

環境省のHPでは地域の厚さ指数の情報や熱中症警戒アラートの情報提供が開始されています。参考にしましょう。尚、滋賀県では6/29にアラートが発表されています。



ひと月の動き

農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋

～定価(税込)618円 購読申込受付中～

米需給見通しが上昇

米穀機構が4月の景況調査(DI)を発表。米の向こう3か月の需給の見通しは前月比プラス3の37。21年産米の出回り開始以降、最高値を記録。まん延防止等重点措置の解除による外食需給の回復の兆しや輸入小麦の高騰による米需要への期待感などが影響。

秋肥が大幅値上げ

JA全農が6～10月に供給する秋肥の価格を発表。春肥と比較して、尿素や塩化カリウムなどの単肥は25%～94%の値上げ。窒素・リン酸・カリを各15%ずつ含む基準銘柄の高度化成肥料は55%の値上げ。肥料輸出国であるロシアへの経済制裁により流通が停滞していることや、中国が国内への流通を優先させていることで原料の国際市況が史上最高値を記録しており、そこに円安などが加わったことが原因。

「食料・農業・農村白書」を閣議決定

政府が「2021年度食料・農業・農村白書」を閣議決定。第一章に「食料の安定供給の確保」を掲げ、コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻といった食料供給を脅かすリスクに備えて、国内の農業生産増大に向けた取り組みがますます重要であると強調。高騰する生産資材についても輸入国の多元化や国内資源への代替促進が必要としている。

農地関連法が成立

地域の農地利用のビジョンを描く人・農地プランを「地域計画」として法定化する農地関連法が参院本会議で可決・成立。農地一筆ごとに将来の利用者を特定する「目標地図」を、地域計画の柱とし、市町村に策定を求める。策定期間は3年。